



ちよだ 令和4年度 生物多様性 活動事例集

— 受賞者の活動 —

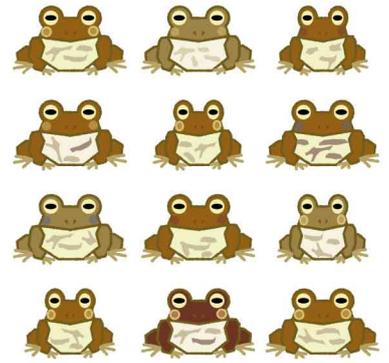
皇居から広がる
生きもの
ネットワーク

.....
自然と共生した
都心のまちを
めざして

生物多様性 とは？

地球上に存在するあらゆる生きものは、互いに生存を助け合いながら複雑に関わり合い、自然の中でそれぞれの役割を持って、一定のバランスで持続する生態系を創りあげています。このようなさまざまな生きものの豊かな個性とつながりを「生物多様性」といいます。

● 生物多様性 3つのレベル



1 生態系の多様性
それぞれの地域では、森や草地、池などの多様なタイプの生態系が存在します。

2 種の多様性
一つ一つの生態系には、さまざまな個性を持った多くの種が存在します。

3 遺伝子の多様性
同じ種でも色・形や性質などに違いがあり、多様なタイプの遺伝子が存在します。

いま、生物多様性が 危ない！！

現在、地球上では野生生物の乱獲や生息地の破壊、地球温暖化、人が持ち込んだ外来種などの影響によって、生きものの減少や絶滅がこれまでになく急速に進んでいます。

このように生物多様性が失われ続けると、生態系のバランスが大きく崩れ、わたしたちの暮らしを支える自然の恵みを持続的に得ることができる仕組みが壊れてしまいます。

危機 1 野生生物の乱獲や 生息地の破壊

開発行為による生きものの生息・生育環境の悪化や、鑑賞、商業利用を目的とした乱獲によって、生きものの数が減少しています。

危機 2 生態系の質の低下

人の手によってバランスが保たれていた里山の森林や農地が、生活様式の変化によって管理されず荒廃し、生きものの生息・生育環境が悪化しています。

危機 3 地球環境の 変化による影響

地球温暖化などの影響による気象の変化で、環境が変化し、生きものの減少や絶滅が急速に進み、生態系が単純になっています。

危機 4 外来種による 生態系のかく乱

自然状態では生息・生育していなかった地域に、人間のさまざまな活動で持ち込まれ、定着した外来種によって、地域固有の生態系のバランスが崩れてきています。

ちよだ 生物多様性大賞 って何だろう？

「ちよだ生物多様性大賞」は、生物多様性に関する優れた活動を表彰することで、生物多様性の保全活動をする意欲を高め、積極的に取り組んでいただくことを目的とした制度です。

ちよだの生きものたちの魅力を改めて感じる事が出来るこの制度は、平成28年度に都内で初めて創設されたユニークな制度です！

● 令和4年度 生物多様性大賞表彰式の様子 ●



● 入賞
SBL : SURUGADAI BIRD LOVERS
千代田区の屋上緑化公開緑地における野鳥モニタリング

● 入賞
しらやま ちお
白山 千桜さん
千代田区と東京近郊の昆虫生息調査

● なぜ千代田区で？ ～取り組む意義～ ●

千代田区は、官公庁や大企業が集中する一方で、皇居や日比谷公園などの豊かな自然に恵まれていることが、他にはない大きな特徴です。だからこそ、生物多様性を含めた環境との共生が必要です。



現 官公庁、大企業などが集中し、
状 国内外の環境に大きな影響を与えています。

生物多様性を含めた環境と共生できる経済社会にする必要があります！



現 皇居には、豊かな自然と生態系が存在します。
状 一方、その他の区内の自然は少なく孤立しています。

皇居の豊かな自然環境を周囲へ広げる取組みは、千代田区だからできることです！



次のページからは、受賞者の活動を紹介します。
身近な生きものを楽しく観察しながら活動しています。
皆さんもふるって生物多様性大賞にご応募ください！



千代田区と東京近郊の昆虫生息調査

しらやま ちお
(白山 千桜さん)



活動目的

千代田区の昆虫生息の特殊性を把握する。



活動場所

千代田区内の公園や自宅周辺など



規 模

個人での活動(採集場所へは保護者1名が同伴、
標本作成はすべて本人)



活動時期 2022年3月～8月



活動内容

2022年3月～8月にかけて、千代田区内の公園や自宅周辺でトンボを中心とした昆虫の観察や採集を行い、標本を作成しました。

また、東京近郊でも昆虫を採集し、千代田区内で観察した昆虫と生態や種数の比較をしました。

評価のポイント



自主的に取り組んでいる様子が見え、標本はラベルづくりもされていてとても良いと思います。
自分で昆虫の名前を調べて標本をきちんと作ることができているのは素晴らしいです。

受賞者のひと言

千代田区は東京の中心ですが、小さな池や森がたくさんあり、いろんな昆虫のすみが守られていました。
これからも多くのしゅるいのトンボや昆虫についてしらべて、昆虫が住みやすいまちになるように活動したいです。

活動の様子

同じ種類のトンボでも雌雄で翅や体の柄が違い、種類によって目の位置や腹部の太さや長さが異なることを確認できました。

ラベルには「種名」、「採集地」、「採集日」、「採集者」の情報を記載しました。

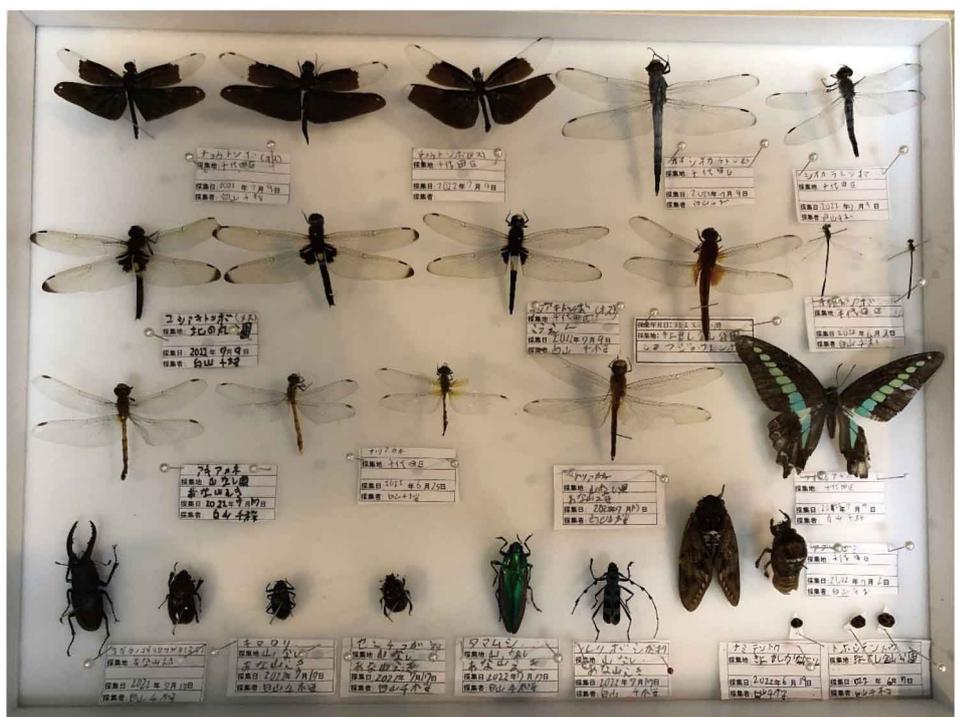


標本作成の様子

今回、千代田区と東京近郊で観察した昆虫のうち、特にトンボは千代田区でも数多くの種類を観察することができました。



東京近郊で昆虫採集をする姿



今回の活動中に採集したトンボや昆虫

千代田区の屋上緑化公開緑地における野鳥モニタリング (SBL : SURUGADAI BIRD LOVERS)



活動目的

企業緑地において企業と学生と共同で6年間の野鳥飛来状況をまとめる。



活動場所

神田駿河台の三井住友海上火災株式会社駿河台ビル周辺に整備した緑地



規模

緑地内5箇所を6年間観察(現在も実施中)



活動時期 2016年4月～(通年で活動)



活動内容

法政大学高田ゼミと三井住友海上火災株式会社が連携して、同社の神田駿河台本社ビルに整備されている緑地に飛来する野鳥を自動撮影カメラでモニタリングしました。

撮影した画像から種、個体数、時刻などの情報を取りまとめて分析評価を行い、2016年4月以降の6年間のデータから都市における生きものに配慮した緑地づくりの潜在的効果を明らかにしました。

評価のポイント



教職員と学生、企業が協力してチームとしてモニタリングが行われており、しっかりとデータが取られています。

都心の緑に工夫を凝らすことで、多くの鳥がやってくるのがわかりました。また自動撮影カメラには普段人前では見せない鳥たちの仕草も写っていてとても親しみを感じました。この先どんな来客の訪問があるのか、楽しみながら続けていきたいと思っています。

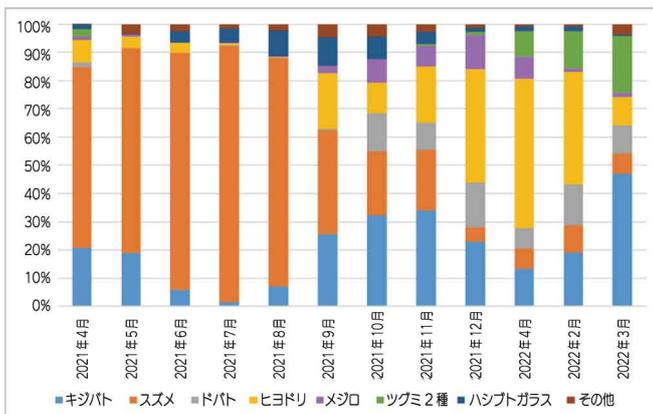
受賞者のひと言

活動の様子

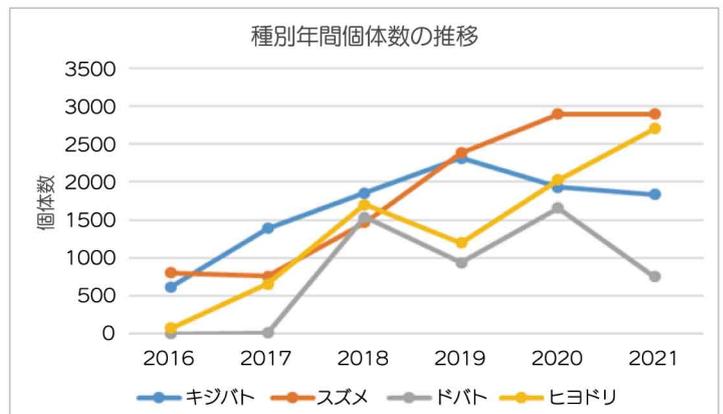


緑地に訪れた鳥たち

*東京都区部では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



緑地では春～夏にスズメ、秋以降にキジバト・ヒヨドリ、冬にメジロやツグミの確認割合が増える様子から、様々な種が季節に応じて緑地を利用していることが明らかになりました。



6年間で個体数、種数ともに増加しており、個体数の増加に最も寄与したのはスズメ、ヒヨドリ、キジバト等の身近な野鳥でした。

その他の活動紹介

 **活動場所** 自宅のベランダ

 **規模** 個人

 **活動時期** 2019年6月から3年間継続中。
6月から8月頃の間に観察しています。

 **活動内容**

2019年から3年間、暖かい季節(6月～9月)に自宅のベランダでヒヨドリの子育てを観察しています。

シーズン中に行われる巣作りの回数や、巣の材料、産卵数などを確認するほか、ひな鳥が飛び方や餌の取り方を身に付ける様子を見守っています。親鳥を待つ間、ひな鳥同士が助け合う姿は愛情深く感動するものです。

営巣場所の様子



親鳥にエサをねだるひな鳥



人工物で作られた巣を使用する様子



親鳥を待つ4羽のひな鳥

千代田区におけるその他の取組み紹介 ①

セミ羽化観察会

 **活動場所** 日比谷公園

 **活動内容**

セミの羽化観察会では日比谷公園にセミの羽化観察に出かけるほか、室内でセミの種類や鳴き声、セミの一生についての講義を受けることができます。



観察できた羽化後のミンミンゼミ



セミの羽化を観察する様子

秋のどんぐり観察と生きもの楽習会

 **活動場所** 北の丸公園

 **活動内容**

どんぐり観察では北の丸公園にどんぐり探しに出かけるほか、室内でどんぐりの種類や見分け方についての講義を受けることができます。そのほか、公園で集めたどんぐりでの工作や「どんぐりカード」を使ったカードゲームなど盛りだくさんの内容を楽しめます。



どんぐり観察会の様子



どんぐりで工作の様子

千代田区におけるその他の取組み紹介 ②

千代田区 生きものさがし

「千代田区生きものさがし」は、区内の身近な自然にふれ、さまざまな生きものを知ることで、自然や生きものへの関心を高めることを目的として行っています。

バイオーム
「Biome」アプリをつかって
生きものさがしをしよう！
皆様のご参加をお待ちしています。

令和5年度は、生きものコレクションアプリ「Biome」を活用した、千代田区版生きものクエストを実施します！

- 千代田区生きものさがし2023春編（4/20～5/31）
- 千代田区生きものさがし2023夏編（7/24～8/31）

* 千代田区で見かけた生きものをお手持ちのスマートフォンで撮影し、アプリに投稿してください。

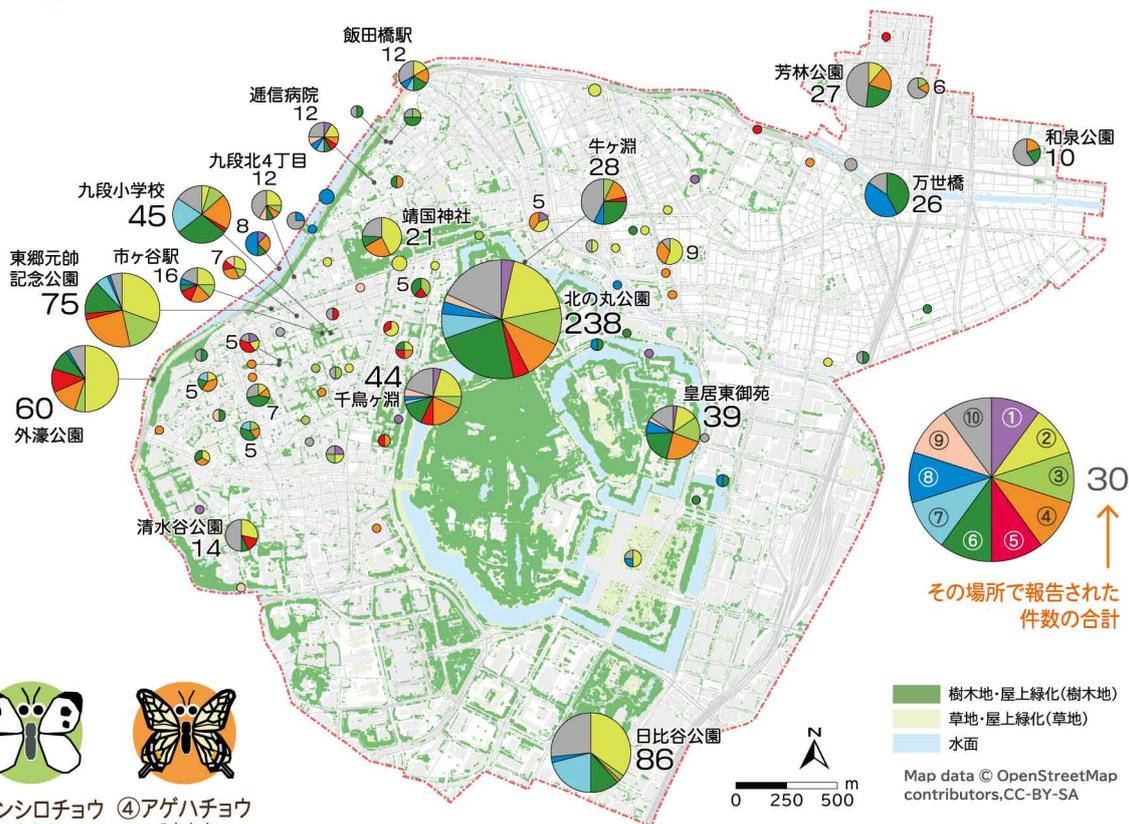


← 「Biome」アプリのインストールはこちらから

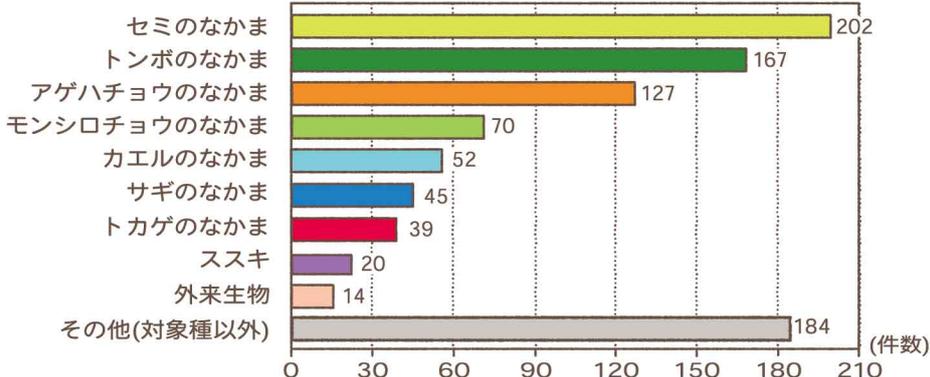
調査結果(2022年)

生きものさがし2022では、以下の生きものを対象に調査し、合計920件の情報が寄せられました。

そのうち確認数が一番多かった生きもの（種群）はセミのなかまでした。次いでトンボのなかま、アゲハチョウのなかまが多く確認されました。



【見つけた生きもの（種群）ランキング】





家庭での身近な取組みでも、
お気軽にご応募下さい！

ちよだ 生物多様性大賞

令和5年度 募集案内

募集期間

令和5年

6月1日(木) ~
11月30日(木)

対象

区内で生物多様性の保全等に関する活動をしている個人、
団体、事業者等
※自薦、他薦を問いません。

応募方法

①メール ②郵送 ③持参(環境政策課)



上記の方法で応募できます。
区ホームページから応募用紙を
ダウンロードしてください。

選考ポイント

実効性や発展性・波及性等の
視点から、個人、団体等の特性
に合わせて評価します。

表彰者発表

令和5年12月(予定)

表彰式

令和6年2月(予定)

※応募書類と写真は原則として返却いたしません。
※受賞者の活動はホームページ等で公表します。

応募／問い合わせ先

千代田区環境まちづくり部環境政策課

電話：03-5211-4255 FAX：03-3264-8956

Eメール：kankyouseisaku@city.chiyoda.lg.jp

住所：〒102-8688 千代田区九段南1-2-1



● 表彰の対象となる活動例

1 生物多様性の保全に関する活動

- ▶ アダプトシステムへの参加
- ▶ 緑地づくり
- ▶ ツバメの巣の見守り など



アダプトシステム

2 生きもののネットワークづくりに関する活動

- ▶ 鳥が休める場所づくり
- ▶ 生きものが住みやすい場所づくり
- ▶ 小さな空地も活かした都心の緑化 など



ツバメの巣

3 普及・啓発に関する活動

- ▶ 秋のどんぐり観察会と生きもの楽習会、セミ羽化観察会への参加 など



羽を休めるカワセミ

4 その他、特徴ある活動

- ▶ 生きもの情報の蓄積や発信
- ▶ 生きもの調査による発見 など



秋のどんぐり観察会

*昨年度の表彰者活動事例はこちらから⇒



セミ羽化観察会



緑地づくり

